

令和8年1月9日

和たぐ新聞・腰炉温高

Watag eXtensible Markup Language

ののさま ほっこり とことん豊

腰炉温高

字母見る和玉

司
|| 一、二、ロ
|| し
|| 三
|| 母
|| じ
|| ハハ

司



|| し

ののもへ・へへ・大じ
へへ
じ 山山
じ

山山 || 「じ」



のの萌へ

十井の色葉字
青人草

発行 づるばみ
郵便 四三八一〇〇八六
住所 磐田市見付二七八六
電話 〇五三八一三三三〇二七三
F X 〇五三八一三三三〇二七三
電信 logos&myb4biglobe.ne.jp
編集者 岩田修良
カナ ア||@ ドレス||ドット

「じ」

じ||し、
|| し二
|| 司二

山山 || 「司二」



のの萌へ

「司二」

司||ロ 二一、
|| 二二十し
|| こへナし
|| 聲無司||二一、ロ
|| こし 炉
|| 腰 炉

|| し

|| し

へ の へ の も へ じ

へ へ

の の どんぐり 眼 (へ の) の
も へ じ

へ へ し し (縦直し)

へ 二 二 二 二

へ リン ち

へ 隣 地

の の どんぐり (眼) の

へ つる は み (和名) の

へ 櫟 (俗称) の

も へ じ も へ へ し

へ も へ ノ ノ じ

へ も み じ

へ 黄葉



玉手箱

玉手箱 へ 王、手箱

へ 王の黄葉箱

へ 隣地櫟の黄葉箱

隣 へ 鶴 へ 隣 へ 鶴 羽 實

へ 隣 へ つる は み (和名)

へ 隣 へ 櫟 (俗称)

東和 へ 四大

へ 蓋の無い木の箱・隣櫟の葉っぱ

へ と ことん 豊



くぬぎ

二種有り

東に自生するくぬぎ (櫟)

西に自生するくぬぎ (精)

どんぐり へ つる は み (和名)

へ くぬぎ (俗称)

精 へ 口ハ木、王

へ 庭 木、王

へ 庭王、木 へ 庭の精

庭王の聲

和が国の庭王 (「大じ」無)

へ の

へ の も へ

へ の

も の

こ しの (こ 二 之 和 字 二 和)

二 和 鶴 の

庭 鶴 の

へ へ の へ

し し の し (「へ」縦直「し」)

二 二 二 二 の 二 二

こ トラ の こ へ

木と葉 の 聲

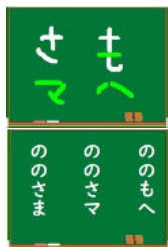
庭王の聲（庭鶴）

ののもへへへ

①鬼



②鬼退治



ののもへ

ののさま（庭鶴の聲）

庭王の聲（庭鶴の葉）

へへハハ

葉っぱ

へへしし（縦直し）

ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ



和王を読む

への

もへ

への

へ

①のののもへ

ののさま（庭鶴）

②へへ

ほっこり（其葉っぱ）

③大じし大、

四大ハ

四大ハ

四大ハ

四大ハ

四大の葉っぱ

四大蓋の無い木の箱



四大

四大口大ノし

ワ王の二二

和王のハハ

和王の葉っぱ

和王へへののもへじ

へへ ののもへへし

しし 櫛のへへし

二二二櫛のみ

リンチ 櫛の黄葉

隣地 櫛の黄葉



四大

四大||し ノロ・大

||二二ノ二二・二ハ

||十ハのイヘ・二話

||東和の家・二話

||四大隣鶴葉っぱ(とことん豊)

一話:腰炉温高(聲無腰炉)



二話:四大隣鶴葉っぱ(とことん豊)



天地之詞

四大||四題

||天地之詞

詞||ロ二二・、二二

||ワ二十・、三

||和王・、三話

ののもへ...ののさま

へへ...ほっこり

大じ...とことん豊

一話
二話
三話

天||ののさま

地||ほっこり

之||とことん豊

天

天||二二し

||二二二二

||紺ロ

||紺ワ

||紺輪



ののさま

二二
二二

地

地||し ノソラ

||二二のソラ

||二二の空

||紺の空



ほっこり

二二
二二



ノし大 四大
ハ葉
四大葉 ところん豊



ところん豊

之ノトヘ
ノとハ

之

昔の日の出歌



大日 のらい



ほっこり

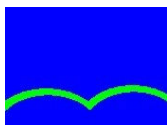


ののさま

大日 大口・一 (弓形)
のらい 〇〇らいハ
輪らい眼
笑い眼



貫之の和歌



ほっこり



ののさま

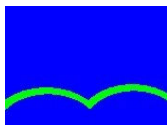
定家の和歌



大地



好望
こ折 (ハ) 棒 (弓)

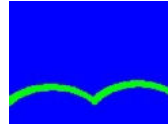


ほっこり



ののさま

尊徳・芭蕉の歌



野望大地

異心革命始まる

前述の和名の三歌

ののさま ほっこりとことん響が

生まれる前に 幕末に「異変」が起きる

室町時代に

禍の火種と忌み嫌はれた

蝦夷の「真っ赤な日の丸」が

万物の根源と誤認され

「皇国」として復古してしまった

平山神道の「日文」である

しかし 和が国には 同時に

土佐光信が『清水寺縁起』に語った

大和朝廷が

真っ赤な日の丸・蝦夷軍を退治してゐる
そんな貴重な絵巻物が 国宝として残る

平田新興宗教

ア…一

カ…二

薩…①

タ

奈

破…一

魔

矢

破…二

良…一

←

和

破…③

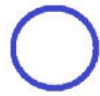
①②③の解説

アカ薩 た・奈

赤 さった・大二小

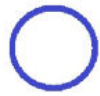
赤 去った・大口

←



破魔矢

←



良和 〓ヘソノ日・二ハノロ

〓えゾの日・二話のワ

〓蝦夷の日・アカの輪

〓蝦夷の日・赤の輪



平田の誤認

平田の言ふ「大日」は



ののさまである

昔の「大口」は

大日＝大口・一

昔の「のらい」は

のらい＝のらいハ

＝わらい眼

＝笑い眼

絵日主さまであった



大口のらい



蝦夷の日の丸

蝦夷の日の丸は：

禍（わざわひ）の火種

それは以下の語源展開式に拠る

禍＝わざわい ×

＝わざはひ ×

＝わざわひ ○

＝ワ座輪火

＝口座輪火

四界（口）に座する「火輪」

だから 歴史は

大和朝廷が

真つ赤な日の丸・蝦夷軍を

退治してゐる貴重な「絵」を

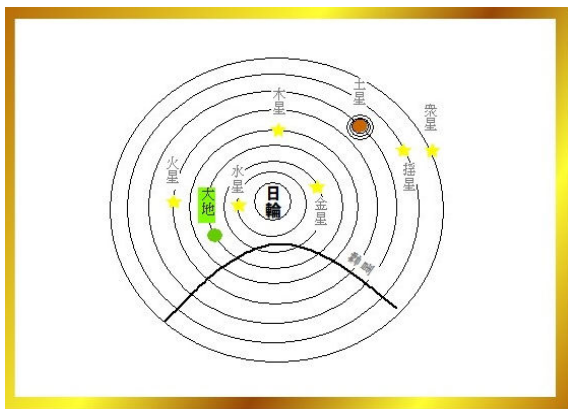
国宝として 今に残したのだらう

西洋の天文学と絡める

宇宙は

太陽系を中心に 惑星が周回する

その太陽を「日輪」としたらどうなるか



佐藤信淵の世界観

佐藤は 平田の年上であつたが

平田の門下生となり

西洋の天文学と絡めて

「平田新興宗教」を

「世界侵攻宗教」へと発展させた

『混同秘策』である

上図は 佐藤の宇宙観である

佐藤は 太陽を太陽とは絶対に書かない

執拗に「日輪」と書く

その真意は

太陽＝日輪＝真つ赤な日の丸

推測するに

当時の非常識を 常識にするために

ひたすら 太陽を「日輪」と

綴ったのだらう

平田の『皇国』とは

皇国Ⅱ十、二日・口、王

十、二日Ⅱ赤日Ⅲ①

アⅢⅢ

カⅢⅢ

サⅢⅢ

略Ⅲ（四五六七八九）

ワⅢⅢ

口、王Ⅱ四界（口）、王Ⅲ②

①②より

平田の言ふ『皇国』は

大和朝廷が

『禍の火種』と認識した

『蝦夷の口の丸』であり

『古事記』が云ふ「禍津日神」であらう

佐藤の侵攻宗教

宇山は 佐藤が描いた天文図の如く

「口輪」を中心に 惑星が動いてゐる

宇山の秩序は そこにある

ならば この世も同じである

「口輪」を国旗とする『皇国』が

中心になって 初めてこの世は安定する

佐藤は さう考へたに違ひない

そこで世界制覇を私案する

・世界制覇の拠点は東京にせよ

・取りやすき所から軍事占領せよ

・満州は 最も取りやすき所なり

・軍事占領したら 経済発展のため

以下の『経済の大典』を伝授せよ

佐藤の世界侵攻宗教



カケマクモ畏き座霊の神
むすび

これに逆らふ者は

天の大罪人だから 天刑を下せ

そのために 強い軍隊が必要だ

薩長の暴力革命成功前

京都は荒れに荒れた

その時の決め台詞を思ひ出されよ

天刑すなはち天誅（てんちゅう）である

大東亜戦争時

昭南（シンガポール）を占領した時

駅に 生首を並べて

その下に

日本軍に反対するとこの様になる と

英語・マレー語・支那語で書かれてゐた

『暁の宇品』堀川恵子著 貿易商人談

皇国すなはち真つ赤な日の丸軍に

抗ふ者に 厳しい天刑を下した訳だが

それは 今から二百年前に書かれてゐた

幕末の志士として名高い

薩摩の島津斉彬や長州の吉田松陰が

唱へた「大陸出撃論」も

佐藤の『混同秘策』に煽られて

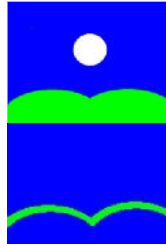
それを口に出しただけで

その源は 大東亜戦争の教書

佐藤の『混同秘策』にある

つまり

異心前には 未完の絵詞



好望大地

が存在したが

未熟な作品であったために

「禍津日神」に 勝てる偉力はなかった

もちろん

既にご紹介した「貫之の歌」でも

「定家の歌」でも同じである

つまり

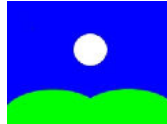
史上に「禍津日神」に勝てる

絵詞は 未だに登場してゐない

だから 和正を仰いで

「禍津日神」に勝てる絵詞開発を急いだ

出て来た絵詞が：



ののさま
ほっこり
とことん豊



音無腰炉



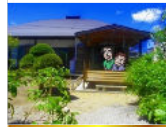
腰炉

絵詞の実体

腰炉温高（音無此炉）



腰炉



ののさま
ほっこり
（庭の椿）
（その葉）



とことん豊

道の始

腰炉温高（音無腰炉）



腰炉

一步踏み出す

平和 十ノ平

和 二の・一八・八

和 二十の・一八・八

和 王の・いろは・八

のさま

ほっこり

平和 十ノ平

二 二の・十一・八

庭 二十の・二二ノハ

庭 王の・ことハ

庭 王の・木と葉



のさま (庭の精)
ほっこり (その葉)



二歩踏み出す

本来は「四大」を作って



そこに隣地の櫟葉を溜めるが

さう 簡単に

「隣の庭」は手に入らない

そこで代はりに

豊 二しノロ曲

こしの炉曲

腰の炉曲

とことん湯高を代用する

道の始 その一

① 腰炉温高 (聲無腰炉)

② 庭に「庭土」を招く

③ 言技専念

のさま 庭の精

ほっこり その葉

とことん湯高 腰炉

平和 十ノ・一八・ハ

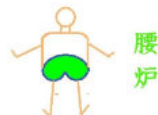
和 二ノ・一八・ハ

和 二十ノ・いろは・ハ

和 王の・いろは・ハ

← ←

のさま ほっこり



道の始 二

① 腰炉温高 (聲無腰炉)

② 庭に「庭土」を招く

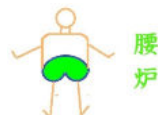
③ 四大を作って

「庭の草」を納める

のさま 庭の精

ほっこり その葉

とことんゆたか 四大の草



医王

医王 天 王 ・ コノ

|| し ナー ・ ニシ ・ ワ

|| ニ ない ・ 腰 ・ 炉

|| こへ 無い ・ 腰 炉

|| 聲 無い ・ 腰 炉

天 || し ナー

王 || ニ シ

コノ || ワ

ワ コ ノ

天 し ナー

王 ニ シ

腰 炉



癌

和が国の「癌因」

日 / ナイ コ 転

ノ ニ シ

癌 山

日の無い心の腰炉

腰 炉



詞の「心」

詞 || ニ・ロ・ニ・、ロ

|| こころ・こし 炉

|| 心 ・ 腰 炉

心は 脳を超えてゐる

脳外科医の共通認識である

そして 彼らは実在の心を求む

どうなるか？

神秘主義に陥るのが常道だ

しかし

天地を動かす「詞」から導けば

簡単に 実在の「心」が掴める

「炉」に日を入れた実在の「心」

腰 炉



腰炉温高の実績

・薬王「イベルメクチン」や

・養王「ビタミンD」の効能も

あるにはあるだらうが

本年五月より

一日も欠かさずに腰炉（心）に

日を居れ 常時 心は萌へてゐる

結果

- ・長年の通院から解放
- ・長年の降圧剤から解放
- ・長年の痛風薬から解放され

医者要らずの身となった

腰 炉

医者要らずの暮



今後の研究

医療面

腰骨に多いと思はれる
造血幹細胞が
温められることによつて
ビタミンDが自然増加するか否か
家庭で血中ビタミン濃度が測れる
簡易測定機の開発が待ち遠しい

今後の研究

「ハ」が大きい所に着目

金

〓十二ノ・大ハ
〓二ハノ・王ハ
〓四大 の・王葉

王〓へのへのもへじ

〓へのへのもへゝゝし
〓しし櫛のもへノノじ
〓隣地櫛のもみ じ
〓隣地櫛の黄葉（解消）



とことん豊

今後の研究

平和

ののさま ほっこり
右の「平和の言葉」三味に暮らし
果たして 本当に
核戦争の危機 世界大戦の危機を
乗り越えることが 出来るか否か
医療面
富裕面
戦苦からの解放面
以上三点の経過を観察して行きたい

和が国の「国学」

国〓口王 〓学
〓ワ王 〓学
〓和主 〓学
〓へのへのもへじゝ学
私論の真偽判定は難しいだらうが
和が国の国学が
へのへのもへじの研究であることに
間違ひはない
さう 言ひ切つていいと思はれる